

氷釋不可收拾、凡物理土中久而難滅、一見風日即壞、固其所也、獨幸此舟之僅存、略中得之實天明戊申二月初二日院主某上人

〔北越雪譜 二編下〕土中の舟

蒲原郡五泉の在一里ばかりに、下新田といふ村あり、或年此村の者ども、事ありて阿加川の岸を掘しに、土中より長さ三間ばかりの船を掘いだせり、全體少しも腐ず、形今の船に異なるのみならず、金具を用ふべき處、みな鯨の髭を用ひて、寸鐵をもほどこしたる處なし、木もまた何の木なるを辨する者なく、おそらくは異國の船ならんといへりとぞ、余下越後に遊びし時、杉田村小野佐五右衛門が家にて、かの船の木にて作りたる硯箱を見しに、木質漢産ともおもはれき、上古漂流の夷船にやあらん、

〔枕草子 十二〕うちとくまじきもの

舟のみち、日のうら、かなるに、海のおもてのいみじうのどかに、あさみどりのうちたるを引わたしたるやうに見えて、いさ、かおそろしきけしきもなきわかき女の、あこめばかりきたる侍ひのもの、若やかなるもろとも、ろといふ物をして、歌をいみじううたひたる、いとおかしう、やんごとなき人にも、見せ奉らまほしう思ひいくに、風いたうふき、海のおもてのたゝあれにあしうなるに、物もおほえず、とまるべき所にこぎつくるほど、舟に波のかけたるさまなどは、さばかりなごかりつる海とも見えすかし、おもへば舟にのりてありく人ばかり、ゆゝしきものこそなければ、よろしきふかさにてだに、さまはかなき物にのりて、こぎゆくべき物にぞあらぬや、ましてそこひも去らず、ちひろなどもあらんに、物いとつみいれたれば、水ぎは、只一尺ばかりだになきに、げすどものいさ、かおそろしとも思ひたらず、はしりありき、露あらくもせば、まづみやせんと思ふに、大なる松の木などの、二三尺ばかりにてまるなるを、五六ほうくとなげ入など